

親子海遊び

身近な海の生き物学ぶ

専門家招き観察会

佐仁小

奄美市笠利町の佐仁小学校（根釜文子校長、児童13人）で9日、海辺の生き物観察会がありました。講師は鹿児島大学国際センター長の河合溪教授。児童らは佐仁海岸のリーフ（干瀬）を歩いて潮だまりやサンゴ礁に住む生き物を観察し、身近な海の豊かさを実感しました。

は天候に恵まれ、児童らは潮の引いたリーフを約1時間散策。岩に張り付くタイワンクロフジツボとイワフジツボの仲間の生態について河合教授から説明を受け、興味津々な様子で触ったり水を掛けたりました。潮だまりではクモヒトデやシャコガイ、クロナマコなど多様な生き物が見られ、児童らは持参したバケツに入れて観察を楽しみました。

5年生の小勝陽斗君（11）は「知っている生き物も知らなかった生き物も生態を教えてもらって勉強になった。もっと海の生き物を調べたい」と目を輝かせました。

潮だまりの生き物の観察を楽しむ児童ら9日、奄美市笠利町の佐仁海岸



おめでとう!

令和6年5月19日（日）

なんかいにちにちしんぶん

南海日日新聞の3面にのいました。

